



横浜市立一本松小学校

# 学校だより

3月号

令和5年2月28日  
横浜市立一本松小学校  
校長 高桑 透

## 「ピンクシャツデー」

校長 高桑 透

いよいよ令和4年度も最後の月、3月となりました。「三寒四温」という言葉のように、暖かい日差しを感じる日も増えてきました。春が少しずつ近づいてきています。先日、地域のもちつき大会に教職員と共に参加しました。感染症の影響もあり3年ぶりだったそうです。お餅の量も以前に比べたら少なめにしていると伺いました。それでも、威勢の良い掛け声とともに、見事に餅をつき上げていく様子、小さい杵を使って子どもたちが僕も私もと順番に臼に向かう姿を見て、本当に素敵だなと感じました。地域で行われる夏祭りや餅つきのように、ご近所の関わり合いがあり、その中で子どもたちが育っていくことが、日本の伝統だと実感しました。本校は、このような温かみのある地域に囲まれています。本校の子どもたちはとても幸せです。これからも学校教育目標の一つである「まちを愛する子ども」を、皆さんと一緒に育てていきたいと思えます。

2月20日の朝会で、ピンクシャツデーについて子どもたちに話しました。そして、みんなで「いじめストップ!」のワールドアクションに参加しようと伝えました。※ 以下ピンクシャツデーの始まり

今から16年前のカナダ・バンクーバー。ピンクのシャツを着た男子学生が、そのことでからかわれていじめにあいました。それを聞いた2人の上級生が50枚のピンクシャツを買って、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日、学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒が、ピンクのシャツや小物を身につけて登校しました。学校中がピンク色にそまり、いじめは自然となくなったそうです。

州知事がこのエピソードを知り、2月最終水曜日を「ピンクシャツデー」と宣言しました。今では世界70か国以上でいじめに反対する活動がおこなわれています。2月の最終水曜日には、世界中でいじめについて考えるようになりました。

私自身がピンクのシャツを着て昨年も同じ話をしているので、2年生以上の子どもたちは覚えている子も多く、朝会当日の休み時間に校庭にいと「似合うよ」「かっこいい」などと声をかけてくれる子もいました。

また、今年のピンクシャツデーは2月22日でしたが、多くの子どもたちと教職員がこの取り組みに積極的に参加しました。私のところに来て「この日のために、洋服のローテーションを変えた」と見せてくれたり、靴やマスクを指さして「ピンクだよ」と伝えてくれる子がいたりしました。子どもたち一人ひとりが「いじめストップ!」の気持ちを強くもち、将来いじめのない社会になることを強く願っています。

